

## 御法川政務官 あいさつ

ご列席の皆様、

シンポジウムを後援している外務省を代表し、一言ご挨拶申し上げます。

まずは、「アフリカデー・シンポジウム2009」の開催を心よりお慶び申し上げます。開催に尽力された駐日アフリカ外交団、国連大学の皆様に敬意を表します。

本日は、アフリカ連合（AU）の前身のアフリカ統一機構（OAU）が設立されてから丸46年と伺っています。この間、アフリカは着実に地域統合の歩みを進めてきました。2002年のAU設立後、AUがその機構の整備をすすめ、平和安全保障の分野や経済・開発分野で、アフリカ全体としての取組をますます強化してきていることは心強い限りです。

昨年5月の第四回アフリカ開発会議（TICADIV）開催からちょうど1年を迎えます。この時期に、TICADの果たしている役割に関するこのようなシンポジウムを行うことは、大変に意義深い試みであると考えます。特に、TICADIV以降の世界的な金融・経済危機はアフリカの一般市民にも大きな影響を与えています。この影響を中心テーマとして議論を行うことは、目前の障害を克服し、TICADプロセスを改めて力強く推進していく上で、時宜を得た取り組みであると言えるでしょう。

世界金融・経済危機がアフリカに与える影響については、本年3月のボツワナでの閣僚級フォローアップ会合におきましても、活発な議論を行いました。私自身、福田前総理、中曽根外務大臣とともにこの会合に出席し、会合の進行に携わりました。そして、アフリカ諸国の現状について認識を深め、アフリカ諸国の声を国際社会に伝えることの必要性を痛感した次第であります。

来週、私は、NYで開催される「世界経済・金融危機とその開発への影響に関する国連ハイレベル会合」に出席します。世界経済の回復に真摯に取り組む日本政府の代表として、またアフリカの友人として出席したいと考えています。本日のシンポジウムの成果も十分に踏まえ、国連での議論に積極的に参加したいと考えております。

本日のシンポジウムを通じ、世界金融・経済危機がアフリカに与える深刻な影響とその対応策につき、有益かつ建設的な議論が展開されることを期待します。シンポジウムの成功を心より祈念申し上げ、私のご挨拶と致します。

ありがとうございました。